

第 1 回 ECHO ONE Clinic 議事録

テーマ：「進行し続ける Her2 陽性乳がんの脳転移のみのケースをどう対応するか」

開催日時：2019 年 6 月 13 日（木曜日）21 時から 22 時（日本時間）

ファシリテーター：陶山久司先生（鳥取大学腫瘍内科）

コメンテーター：下村昭彦先生（国立がん研究センター中央病院乳腺腫瘍内科）

プレゼンター：村上朱里先生（愛媛大学肝胆膵・乳腺外科）

メンター：上野直人先生（MD Anderson Cancer Center Breast Medical Oncology）

参加者：

橋口（横浜南共済病院）、劔持（勤医協中央病院）、田中（大垣市民病院）、綿貫（国立がん研究センター中央病院、佐々木（MD Anderson Cancer Center）、山田（東北大学腫瘍内科）、奥山（昭和大学）、宮川（亀田総合病院）、三浦（昭和大学）、堀川（国立がん研究センター中央病院）、山上（東京大学医学部附属病院）、土屋（宮城県立がんセンター）、大里（東京医療センター）、岡本（聖マリアンナ医大横浜市西部病院）、高橋（がん研有明病院）、山崎（栃木県立がんセンター）、山村（多摩北部医療センター）、橋本（国立がん研究センター中央病院）
那須（虎ノ門病院）、浅野（京都第二赤十字病院）、向原（国立がん研究センター東病院）、森田（聖マリアンナ医大横浜市西部病院）（書記）

全 27 名（順不同、敬称略）

1. 症例提示

愛媛大学村上朱里先生からの症例提示後に質疑応答を行った。主な質問内容やコメントを以下に示した。

【1 次治療について】

- ✓ 1 次治療として Per+HCN+DTX（以下、PHD）を選択した理由は？
- ✓ CLEOPATRA 試験では HCN 耐性症例を除くために、最初の HCN 投与から 1 年以上という適格基準があったので、今回はそれを考慮すると、PHD 以外の選択肢もあったのではないかな？
- ✓ 他に 1 次治療として考えられる選択肢があったかな？
- ✓ ホルモン剤＋抗 HER2 療法ではなく、PHD を選択した理由は？
- ✓ PHD の脳転移に対する効果はどうか？
- ✓ 脳転移に対して効果のある薬物治療はあるかな？
- ✓ 全身治療としてホルモン療法を 1 次治療に選択はなかったかな？
- ✓ 1 次治療としてホルモン療法と併用するとしたらどの抗 HER2 薬を選択するかな？
- ✓ ラパチニブ＋ゲムシタビン、ラパチニブ＋ホルモン療法、ラパチニブ＋HCN などのラパチニブベースのレジメンも選択肢になったのではないかな？
- ✓ フルベストラントと抗 HER2 療法の併用も検討できたのではないかな？

【脳転移について】

- ✓ 脳転移の手術適応は QOL の改善を見込めかどうかポイントとなる（麻痺の改善など）。

- ✓ 無症候性として見つかったのはサーベイランスをしたのか？頭蓋内に病変はないか？
- ✓ T-DM-1 投与中の脳転移のわずかな増大であれば経過観察をする。
- ✓ 症状の出現や明らかな増大であれば手術をしてサブタイプを確認する。

【2 次治療について】

- ✓ 上野) Lapa/GEM→TDM1（その間に脳転移に対する手術や全脳照射などを検討する）
あるいは（PHD→）γナイフ→全脳照射＋全身治療
- ✓ 下村) T-DM-1 を有害事象の観点から先に選択する
- ✓ 向原)（PHD→）γナイフ→経過観察→増悪後に T-DM-1 を開始する

【現時点での治療方針について】

- ✓ 下村) わずかに増大は PD 判定にはせず、経過観察しつつ現治療を継続する。増悪時には脳転移に対しては手術あるいはγナイフのリトライを検討する。全脳照射も考慮できるが転移数が 2 個なので、局所治療を優先したい。
- ✓ 上野) 経過観察する。手術を選択したら術後の全脳照射をやらなければならないので、その時点で全身治療をラパチニブベースに変更する。

【非薬物治療的介入について】

- ✓ 車の運転をするのであれば、脳転移による発作には注意喚起が必要ではないか？

2. ショートレクチャー

MD Anderson Cancer Center の上野直人先生による HER2 陽性乳癌の脳転移に関するレクチャーを行った。

- ✓ 抗てんかん薬使用時にタキサン系の代謝が上昇することが知られているが、それに対する工夫やエビデンスはあるか？
→薬物間相互作用のないレベチラセタム（イーケプラ®）が使いやすいのではないかな。

3. 次回予定

開催日時：2019 年 8 月 1 日木曜 21 時から 22 時（日本時間）

ファシリテーター：陶山久司先生（鳥取大学腫瘍内科）

コメンテーター：板東裕子（筑波大学医学部乳腺外科）

プレゼンター：下村昭彦先生（国立がん研究センター中央病院乳腺腫瘍内科）

メンター：清水千佳子（国立国際医療研究センター乳腺腫瘍内科科長）

テーマ：AYA 世代のがん患者への対応について～妊孕性を中心に議論する～